

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
TEL 06-6765-8904  
FAX 06-6765-8905

# 教職員の働き方改善につながらない！ 「政府・給特法改定案」は廃案を！



給特法廃案を求め  
記者会見をする全教役員

全教・大障教は、「定額働かせ放題」を継続し、「主務教諭」創設や学級担任手当導入などが盛り込まれた給特法改定案について、教員の働き方改善にはつながらず、教職員の序列化・階層化をすすめる、職場を分断するものだとして廃案を求めています。この間、国会への署名提出や数次にわたる議員要請、国会前行動にとりくんできました。

また、今年2月には、全教の申し立てを受け、ILO／ユネスコ教員の地位勧告生適用合同専門委員会（以下、CEART）が日本政府に対して、「所定労働時間を超える労働について適切に報酬を支払う透明性のある制度を工夫すること」と勧告し、改善を求めています。

## CEART勧告を無視する日本政府

全教は、2024年5月、スイス・ジュネーブのILO本部を訪問し、日本における教員の長時間過密労働や教員不足の実態について、要請・懇談を行いました。それを受け、2025年2

月にCEARTが日本政府に勧告を出しました。勧告には、「教員の所定労働時間を超える労働の削減のための社会対話を通じて、戦略を構築し、教員の専門性と仕事の自立的かつ創造的側面を認識しつつ、所定労働時間を超える労働について適切に報酬を支払う透明性のある制度を工夫すること」が明記されています。しかし、日本政府はそれに真摯に向き合わず、「定額働かせ放題」を継続する給特法改定案の強行を企んでいます。

## 現場の私たちの声

「もっとゆっくり子どもたちと関わりたい」学校現場で、そう感じている方も多いのではないのでしょうか。

現在審議されている給特法の改定案では「教職調整額を1年間で1%ずつ段階的に引き上げる」としています。これでは教職員の働き方改革としては極めて不十分です。教職員定数を抜本的に増やすなど、本当に必要などころにお金をかけてほしいと思います。子どもたちに豊かな教育を保障するために、一緒に声をあげていきましょう！

(青年部長 奥 正行)

「給特法改定案」の問題点の一つに、私たち教職員の仕事に責任の違いや賃金格差を持ち込む新たな職「主務教諭」の創設があります。加えて、一部の教員に給与加算するための原資を教員の「義務教育等教員特別手当」や「教職調整額」を削減して生み出すことを目論んでいます。すでに先行導入している東京では、トップダウンの学校運営が強まり、教職員間の共同性が破壊される等、破綻しています。教育現場にさらなる分断を持ち込む制度の導入には断固反対です！

(執行委員長 西面 友史)

## 署名提出と国会要請行動

全教・大障教は、この間、約5万8千筆の署名を国会に提出し、そのとりくみを継続しています。

また、数次にわたる国会要請行動には近畿ブロックからも組合員が参加しています。

国会では、参考人陳述と質疑が行われました。給特法改定案反対署名の呼びかけ人のひとりである高橋哲さんも陳述し、

給特法による時間外等在校時間は労働基準法違反の疑いがあると指摘しました。

国会審議において、給特法改定案の問題点が明らかになり、運動によって早期の衆院通過を断念させました。引き続き、

文部科学委員への要請行動、署名の集約、国会要請のとりくみを強めましよう。

大障教ホームページアドレス <http://fc06631220171211.web2.blks.jp/> Eメールアドレス : [fushoukyou\\_1@mtb.biglobe.ne.jp](mailto:fushoukyou_1@mtb.biglobe.ne.jp)

## 書記局の musubu

長男がゴールデンウィークに帰省していた。長男は小学校教員をしているが、相変わらずの長時間労働。休日も出勤しないと仕事が終わらないと言う。長男の月残業時間は軽く80時間を超える。以前、教職員の働き方について話した時、彼は「金より自由な時間がほしい」と言っていた。私はかつて次の短歌を発表した。

平日は帰って寝るだけ休日は

疲れて寝るだけ息子がこぼす

支援学校の現場でも、年々業務の多忙感が増してきている。筆者の勤務校では、校長が教職員対象に「働き方アンケート」を実施している。2023年のアンケート結果では、一定数の教職員が持ち帰り残業を行っており、その内容は主に教材準備という結果が表れた。校長からも「改善すべき課題」として提起された。だが現状はどうかというと、勤務時間中は様々な書類の作成に追われているのが実情だ。「空きコマ」と言われる時間は少ないし、放課後は会議が詰まっている。筆者の働き方はどうかというと、勤務時間内に業務は終わらない。授業計画や教材準備はおおた休日の業務となっている。教育行政が進める「働き方改革」では、効果は極めて限定的。教職員の長時間労働解消のため、求められているのは、教職員を抜本的に増員することだ。

今国会で審議が進められている給特法「改定」では、教職員の長時間労働は解消しない。「定額働かせ放題」をやめ、公立学校の教員にも残業代を支払う制度とするため、抜本改正が必要だ。筆者は長年教職員組合の役員をしているが、団体交渉の席において、「子育てと仕事で両立できる労働条件の改善」と女性部役員の方々が、涙を流しながら訴えられていたシーンを忘れることができない。教師の「生きがい・働きがい」を取り戻そう。もう一歩を掲げ、結びとする。

男だけならぶ理事らにまわかいて

女性部長は壇上(りり)と舌張る

(S)



# まわりの先生たちとの コミュニケーションがカに

## 北河内ブロック合同新歓教研「そっだ!先輩に聞こう!」

4月26日(土)ラポールひらかたにて、恒例の北河内ブロック分会合同新歓教研「そっだ!先輩に聞こう!」を行ないました。6分会から17名が参加しました。初任の先生から見て「ちよつと先輩」からの経験談を聞き、初任者だけでなく中堅やベテラン層も初心を思い返し、互いに励まされる学習会となりました。



笑顔が大事!と語る発表者

まずは、支援学校での経験2年目の先生からの発表から始めました。「パソコンのどこに何のデータがあるのかわからなくて不安だったが、考えてもわ

からないことはすぐ聞くようにしていた」「自分が主担の授業の時、先輩の先生が空気を和ませてくれた。自分もサブで入った時は、先輩のまねをして盛り上げられるようにがんばった」と、心がけていたことを話しました。また、「教員はたいへん子どもたちがかわい、先輩たちがやさしいと現場で実感した。



参加者みんなで質問や感想を交流しました

自分がずっと伝えようとしていたことを子どもがわかってくれたとき、感動してやりがいを感じた」と経験を振り返りました。

つづいて二人目の発表者は、初任から4年目の先生

「支援学校を見学した時、少人数の子どもに寄り添っている先生たちの姿を見て、この仕事がしたい!と思っ

た」と、支援学校の教員をめぐらしたきつかけを話しました。初任者としての4月

は、「何もわからず不安でいっぱい。両手につないでいる二人の子どもを見るのが精一杯」と、自信を無くしてしまっただけです。「そんな時でも子どもたちは、自分のことをひとりの先生として必要としてくれ

### 参加者の感想

- こんな風に悩んでいるのは私くらいものなんだろうなと思って過ごしていました。けれど、今回先輩方の1年目の話を聞いたことで気持ちが軽くなりました。
- 他の先生方とコミュニケーションをしっかりと取り、真摯に意見を受け止め自分なりに落とし込んで子どもたちに還元していけたら、もっと子どもたちのためになる教育ができると思いました。
- 子どもとのかかわりで喜びを感じられている若手の先生の雰囲気や心にしみました。今年もがんばろう。
- 知らない権利やお給料の話を知ることができてよかったです。

## かがやけ憲法! 平和といのちと人権を 5. 3大阪総がかり集会



集会には約3500人が参加

オープニングは、「土魂鼓(どこんこ)」の和太鼓演奏で盛り上がりました



集会後、参加者でパレードを行ないました



経験年数ごとの悩みややりがいを語りました

ていて、それが救いだっただけで、もう一つの救いと思っただけで、少しいい先生になりたかった。同期との悩みの共有。気持ち楽になった。先輩の先生たちからは、研究授業や日々の話し合いで、いいところはほめてもらい、具体的な助言もしてもらった

と、振り返りました。そして、2年目、3年目と経験を重ねるごとに「こんなにかバーしてもらっていたのかと気づいた」「相担の先生に、指導について自分の思いも話せるようになっていった」と、少しずつ視野や考えを広げていった経験を語りました。最後に、「まわりの先生たちとコミュニケーションをとり、力になる」引き出しが増え、力になると、先輩にメッセージを送りました。

は、「そんな風に悩んでいたと知らなかった。先輩の自分たちにとっては、あんな風になれるだろうかと思うかつこい先輩。今日の話を聞いて親近感が湧いた」といった発言がありました。後半は、長く元気に働き続けるために知っておくべき、さまざまな権利の説明や組合の紹介などをしました。普段なかなか話す機会がないことをじっくり伝え合うことができ、今年も充実した教研となりました。(枚方支援分会 林 陽子)